

早期介入 (Early Intervention)

LECKEY

早期活動介入システム (EAS) を自宅で使用して行える活動を紹介します！

この簡単ガイドで自宅や施設で使用できるレッキーのEAS (早期活動システム) で早期の発達介入例を紹介します。

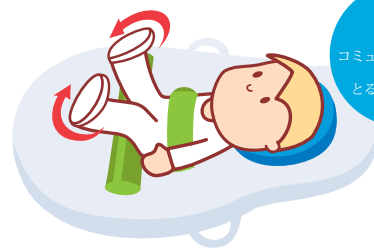
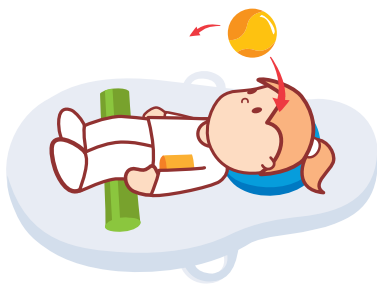
身体、社会、認知、発達を促進できる様々な姿勢を紹介しています。

詳細はclinical@leckey.comを確認してください。



仰向け (背臥位):

膝下にはフォームロールを使用し、サポート力のあるクッションを枕に用います。

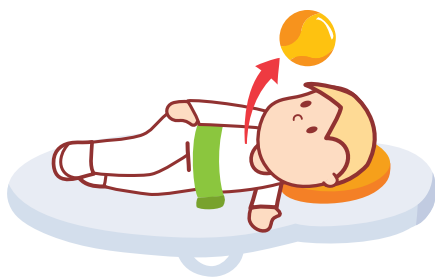


おもちゃを左右移動させることで追視を促せます。

体幹の強化と左右対称性を実現するために手足が正中位 (真ん中) にくるのを促します。

子どもの両脚を持って自転車漕ぎを行う事で下肢筋力や体幹が強化されます。

横向き (側臥位): 長いフォームロールを背部に必要なサポートが提供出来るように変形させます。



おもちゃを左右移動させることで追視や頭部の移動を促せます。両側行います。

手の届く範囲内におもちゃなどを置いて上肢や合目的な動作を促します。

体幹筋や支持性の強化と左右対称性を実現するために手足が正中位 (真ん中) にくるのを促します。

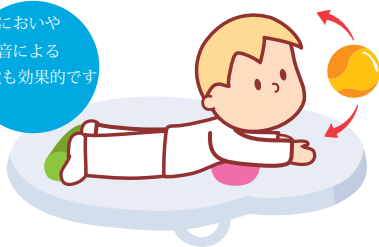
早期介入

LECKEY

早期活動介入システム (EAS) を使って自宅で行える活動

うつ伏せ (腹臥位): 胸部と足底にそれぞれ一個ずつフォームロールを使用します。

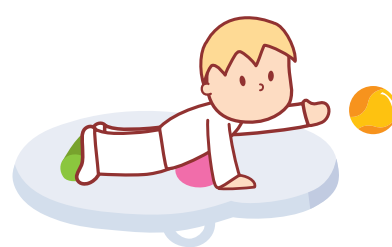
においや音による刺激も効果的です



子どもの視野の範囲内でおもちゃなどを動かすことで頭部のコントロールを促します。可能であれば肘支えにセットして行います。



徐々に胸部のフォームロールによるサポート無しで上肢を伸ばして荷重できるように促します。



左右のリーチ動作を行うことでこの動作の基盤となる体重移動を促して行けます。

長座位: 蹄鉄 (ていてつ) 型のサポートロールを子どもが必要なサポート量に応じて調整します。臀部 (でんぶ) の前ずれ予防に対して小さなロールを臀部より少し前方に設置するもしくはストラップを用いることも必要に際してできます。



長座位姿勢を取っているだけでも筋肉をストレッチさせる効果があります。また、安定するため、上半身が自由になり巧緻動作の練習が行えます。



おもちゃなどの目標物を側方にセットし、リーチ練習を促すことで座位姿勢から臥床位や膝立ちなどの姿勢の移行に必要な能力が訓練できます。

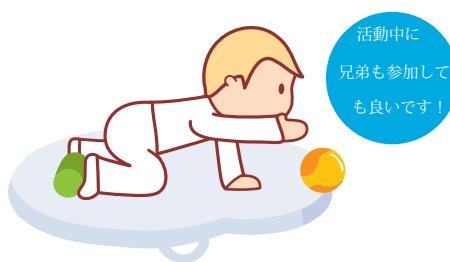


座位姿勢の耐久性が向上するに従って、サポートしているロールなどを徐々に取り除くことでさらに支持性を向上させていけます。

四つん這い: 固定した膝立ち姿勢が保持できるように小さなロールなどを使用する必要がありますが、必要に応じてサポートロールなどを子どもの体幹の下に配置することが可能です。



膝立ちを支持してあげることで必要な肩や股関節周囲の筋肉の強化を促します。



一側への荷重練習を取り入れることで子どもの空間認知、バランス能力を向上させます。



膝立ちの耐久性や支持力が向上するに従って、可能な範囲内でサポート量を減らして行きます。必ず頭部を前方に向けてあげていられるように動機付けをすることが大切です。